

## 令和6年度 第2回 県・市町懇話会 議事録

日時：令和6年11月26日 15:30～17:00

於：兵庫県公館

出席者：兵庫県（知事・副知事・防災監・教育長・各部長）  
兵庫県41市町長(オンライン12市町含む)

### 【開会挨拶】

(齋藤 兵庫県知事)

例年4月と1月に開催させていただいておりますこの県・市町懇話会ですが、今回は、臨時での開催ということになりました。大変ご多忙の中、オンラインでのご参加も含めまして、多くの市長、町長の皆様が、ご参加いただいたことを改めて御礼を申し上げたいと思います。

先ほどまで東京では、全国の市町村長が一堂に会して、インフラ整備に関する要望について取りまとめられたということがございます。そのままオンラインでのご出席をいただいたことについても大変ありがたく思います。

改めまして、この度兵庫県知事に就任させていただきました、齋藤元彦でございます。

まずは今回、文章問題におきまして、多くの県民の皆様、そしてここにおられる市長様、町長様に、県政に対するご心配、ご不安を与えてしまったということ、そして、私も約50日間不在という形になり、その間、服部副知事初め、多くの県職員の皆さんがしっかりとこの県政を支えていただいたということですのでけれども、市や町の行政に対して、やはり不安や心配を与えてしまったということは大変申し訳ないと思っております。改めてお詫びを申し上げたいと思っております。

いち早く、県政を再び前に進めていくということが大事だと思っております。県民の皆さんの大きな期待、県政を前に進めていって欲しい、よりよい県政を行って欲しいという大きなご負託を再びいただきました。

これから何より大事なのはやはり、現場で、市民の皆さまや町民の皆さまに対して、日々、様々な形で行政サービスを提供していただいている県内の市や町と、県がしっかりと連携していくということが大事だと思っております。

やはり、広いこの兵庫県の各地域において、都市部そして農村部や地方部、それぞれの課題があります。この3年間、それぞれの地域に訪ねさせていただいて、本当にそれぞれの地域で、少子化高齢化が進む中で、産業の振興であったりとか、地域社会をどうやって持続可能な形でしていくか、来年万博もあります、それぞれの現場で皆さまとともに、課題やテーマを共有させていただきました。

これからはぜひ、そういった課題について一緒になって向き合わせていただき、それぞれの地域の発展のため、そして活性化のため、それから医療福祉介護含めた、県民の皆さまの暮らしや命を支えることや、産業の発展、農林水産業も本当に大事な局面ですし、そ

ういったことを一つ一つ皆さまとともに、進めていきたいと思ひます。

そして何よりもそれを進めていくためには、県政をしっかりと安定させていくということが大事だと思ひています。私自身も、感謝の気持ちと謙虚な心をもう一度開かせていただき、県職員の皆さんとの信頼関係をもう一度再構築していくということ、それから県議会の皆さまとも、やはり県政を進めていくという思ひは一緒だと思ひますので、そういったところもしっかり、兵庫県がもっともっと良くなるように、また一から頑張っていくという思ひでやっていきたいで取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。

何よりもやはり、県と市や町の皆さまが、これからも連携して様々な課題、テーマと一緒に取組んでいくということが大事だと思ひますので、ぜひ今日を機会に、県政について、そして市や町の発展に向けて、再び皆さまと一緒に考えていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

## 【意見交換】

### (酒井 丹波篠山市長(市長会会長))

齋藤知事におかれましては、ご当選おめでとうござひます。今後とも引き続き、よろしくお願ひをいたしたいと思ひます。

私たち兵庫県の市長会は、8月23日に知事に対して要望いたしました。

県政の混乱停滞を終息するように最善の努力をしていただきたいという要望でした。

それから3ヶ月経ちまして、知事は、一旦失職されましたものの、このたびの選挙で見事当選をされました。県民の皆さまの、知事は齋藤さんがふさわしいという思ひは、大変尊重をしなければいけないと思ひています。

知事には、百条委員会や、第三者委員会の審議も続いていますし、このたびの選挙でもいろいろな点が指摘されるなどしており、再び混乱や停滞が、続いてしまうのではないかと大変心配もしています。

私たち、県内の市町の多くは、兵庫県との連携なくしては解決できない、様々な課題を持っています。私の丹波篠山市でいえば、医療、県立高校の統合、農村をどう守るかといった課題があります。こういったことは、知事のリーダーシップをなくしては、解決ができません。本当に混乱が続くと、大変困ってしまいます。ぜひとも、県政が前に進みますように、最善の努力をどうかよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

その上で私から2点、お願ひをさせていただきます。

1つ目は、言論が保障され、人権が守られ、温かい心の兵庫県を取り戻していただきたいということです。

このたびの選挙では、事実と違うことではないかと思われることが、流布されたり、人権プライバシーに関わることも見受けられたり、大変憂うべき状況ではなかったかと思ひます。県会議員の竹内さんが、議員辞職されました。議員活動に伴って誹謗中傷を受けて、議員が続けられなくなったと聞いています。このような話は、これまで聞いたこともなく、大変悲しく遺憾であると思ひています。このままでは、自由に発言をし、話し合いをし、結論を決めていくという兵庫県の民主主義が壊れてしまうのではないかと心配をし

ているところです。

もうひとつは、人口減少の時代にあって、兵庫県がどのようなビジョンを示し、どのような策をとっていくのか、具体的にお示しをいただきたいということです。

知事は、若い世代への投資を約束されました。

子育てや教育など、若い世代への投資をされることについては大賛成です。この県・市町懇話会でも、これまでから医療や給食の無償化など、県とどのように連携して取り組むかといった問題提起もしてきたところです。ぜひ具体的な施策を示していただいて、協議させていただきたいと願います。

特に、地方部、農村部においては、消滅可能性都市と言われるなど、人口減少が大変深刻となっています。若い人が流出する、農家がどんどん辞めていく、このままでは誰が農村を、農業を守っていくのか、大変危機的な状況にあるとも言え、本当に今が大切な時期だと思っています。どうか、農に関わる多様な担い手の皆さんがこれからも農業や農地や農村社会を守るような具体策をぜひ示していただいて、協議をさせていただきたいと願っています。

#### (庵道 佐用町長 (町村会会長))

まず齋藤知事におかれましては、この度の選挙におきまして、再選を果たされましたこと、改めてお祝いを申し上げます。

町村会を代表して、私から一言発言をさせていただきます。

まず本日は、就任早々にこうして県・市町懇話会が開催されましたことに対しまして、感謝を申し上げたいと思います。

さてこの半年あまり、県政が混乱してきたことは誠に残念であります。私たち町村会12町の首長も大変心配しております。齋藤知事におかれましては、1日も早く静かな状況で、県と町がしっかりとコミュニケーションを図り、課題を共有して、各町が抱える重要課題への認識を深めていただき、バランスのとれた県政を着実に進めていただきますようお願いいたします。

まず、現在各町とも、来年度に向けた予算編成に取り組んでいるところでありますが、昨今の建設物価の高騰、人件費の急激な高騰等により非常に厳しい財政状況にありますため、県のご支援・ご指導をよろしく願いをいたします。

町村会12町の新年度に向けた県当局へのご要望につきましては、13分野・71項目の要望を取りまとめまして、先月、服部副知事・有田総務部長・細川市町振興課長にご説明させていただき、要望書をお渡ししておりますので、また目を通していただきまして、令和7年度の県予算及び施策への反映をよろしく願いを申し上げます。

それからもう1点、県民会館の取り壊しの問題についてです。

県民会館は、県民の文化活動、コミュニティの拠点とともに、私たち町村会を初め、市長会やその他の県関係の多くの関連団体が、その事務所として長年活用してきた施設ですが、老朽化ということで取り壊しが決定され、退去の通告をされ、私ども町村会と市長会は同じ神戸ハーバーランドに移転いたしました。

一緒に入居していた各団体におきましても、それぞれバラバラに多額の費用を負担して移転したわけですが、県庁から遠くにばらばらに移転しましたため、非常に不便であり、他との連携も取りにくくなってしまいました。

老朽化や耐震不足によって建て替えることは必要ではありますが、取り壊した後に、新しい施設を建設されるのかどうかという計画もなく事業を進めるというやり方は、非常に無計画と言わざるをえません。そしてその結果、非効率で、無駄なお金と労力を使うということになってしまいます。

県財政が非常に厳しい状況にあることは重々承知をいたしているところでありますが、県民のためにも、また行政を効率的に幅広く展開をしていくためにも、現在の県民会館のような機能を持った施設が県にとって必要ではないかと私は思っております。

県庁舎の整備と一体的に、こうした新たな施設の建設についても早急に計画をしていただき、そしてそれを示していただきますようによろしくお願ひしたいと思います。

#### (齋藤 兵庫県知事)

ありがとうございます。酒井市長そして庵途町長から、それぞれご挨拶、そして県政へのご指摘をいただきました。大変ありがたいご指摘だったと思っております。

今回、選挙で多くのご負託をいただいたところですが、やはりこれからは、しっかり県政を安定して運営をしていくということが大事であるという酒井市長のご指摘は本当に大事だと思っております。

これから文書問題に関しても、百条委員会や第三者機関への審議も続きますので、そこには丁寧に対応していきたいと思っております。

一方で、県民の皆さんの大きな期待は、やはりよりよい施策、よりよい事業に取り組んで欲しいということであると大変強く感じました。そのためにも、県と市町がこれまで以上に連携して、様々な課題やテーマに対応していく、そしてよりよい施策をしていくということが大事だと思いますので、ぜひこの懇話会も含め、また、それぞれの市や町にもお伺いさせていただきたいと思っておりますので、そういった機会でも、またいろんな現場の状況とかを教えていただければありがたいと思っております。

県民会館や県庁舎の建て替えの問題、庵途町長からもご指摘いただきました。

もともとの案については1,000億かかるもので、これについても、今回の選挙戦でも感じたことは、県民の皆さまの思いとしては、よりコンパクトでスリムなものをとということにして、やはり大きな財源がかかるプロジェクトになりますから、しっかり議論をして進めて欲しいというお声をいただきましたので、県民会館のあり方についても、また、市長会・町村会の皆さまのご意見も踏まえながら、ひとつずつ進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

#### (山崎 宝塚市長)

まず初めに、兵庫県知事選のご再選についてお祝い申し上げます。宝塚市から2点お願ひしたいことがあります。

まず1点目、救急安心センターの事業、#7119についてです。

病気やけがをしたときに、専門家から救急相談を受けて適切な医療機関への案内を受けることができる救急安心センターの事業につきまして、県の保健医療計画において、全県展開のあり方について調査研究を進めていると記載いただいております。

宝塚市では、119番にて同様の相談に応じていますが、実際に出動しても、不搬送となる割合が10%程度ございまして、軽症者に対する出動が、救急車の稼働率を上昇させる一因となっています。

先行して、#7119の取組を進めている自治体においては、それが出動の抑制に一定程度の効果があるという結果が出ていると聞いており、救急車の逼迫への対策として、軽傷者の利用抑制の取組は不可欠ではないかと思っています。

つきましては、県におかれましても費用の負担をお願いしたいということとともに、多くの自治体が参画できるように調整をいただくなど、全県展開に向けた取組について、具体的に、早急に推進していただくようお願いしたいと思います。

もう1点が、ケアマネジャーの法定研修費用の助成についてです。

高齢化が進展しており、ケアマネジャーに求められる役割が、多様化・複雑化している現状におきまして、地域の包括ケアシステムの中核を担う介護支援専門員の確保が非常に重要になってきています。

宝塚市では、第9期の介護保険事業計画において、介護人材の確保、育成を重点取組に位置付けており、増大する福祉・介護ニーズに対応できる質の高い介護人材の安定的な確保・定着を図ることとしておりますが、ケアマネジャーの不足が顕著化し、喫緊の課題と思っております。その一因として考えられるのが、介護支援専門員や主任介護支援専門員の更新制度にかかる費用ではないかと思っています。概ね5年に1回は法定研修の受講が必要であり、研修の内容にもよりますが、概ね4万円から6万円ぐらいの自己負担が生じております。

受講方法に関してはオンライン化などが進んでおりますので、働きながら受講する場合の負担というものが軽減されてはいますが、費用については負担が大きく、そういった声が、団体や事業者からも市に寄せられております。

この対応としまして、兵庫県の地域医療介護総合確保基金の計画及び補助、交付要綱に、介護支援専門員に係る研修を位置付けていただき、介護支援専門員及び主任介護支援専門員の法定研修費用を助成いただくことや、保険者が地域医療介護総合確保基金を活用することで、法定研修費用に対して助成できるような仕組みを整えていただきたいと思います。

県下の各市町ではすでに独自に取組を進められているところもあり、本市でも検討しているところですが、やはり財政的に厳しく市単独ではなかなか実施が難しい状況です。

介護保険の制度の中核を担うケアマネジャーが安心して働き続けられるように、人材の確保、それから離職防止の観点からも、ぜひ、県においても取り組んでいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### (福元 宍粟市長)

知事、再選おめでとうございます。

先ほど知事のご挨拶の中で現場をしっかりと見たいと、また、これまで以上に各市や町と県政のいろんな面で連携していきたいとおっしゃっておられました。大変ありがたいことだと思いますので、ぜひその観点で、今後もよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

また、冒頭に会長（酒井 丹波篠山市長）からお話があったように、8月23日に、市長会の代表として要望させていただきました。ぜひ令和7年度に向けてお願ひしたいと思いますが、特に中山間地は林業や農業をしっかりと守るということは非常に大きな課題と考えておりました、そのためには、やっぱり市や町だけではどうにもならない、どうしても県と力を合わせて、あるいは国へも要望しながら取り組んでいく必要があると考えておりますので、そういった面でも、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

とりわけ、中山間地域含めて、過疎化、少子高齢化、あるいは若者の定着という大きな課題があるのですが、やはり何としても地域の医療をしっかりと守っていきたくております。しかしながら、今公共施設等々を建てる際に非常に物価高、或いは人件費高騰で厳しい状況であります。具体的で申し訳ないのですが、そうした中、宍粟市も新しい病院を建築しようとしております。非常に厳しい財政事情の中ではありますが、何としても、周産期含めて守っていきたくて考えておりますので、可能でありましたら、今後とも、議論の1つとして、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

#### (守本 南あわじ市長)

まずもって齋藤知事、ご当選大変おめでとうございます。

私ども知事の掲げるオール兵庫の精神にのっとり、一緒になってその一翼を担って参りたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私の方から、教育県兵庫の総合的な政策をぜひ、知事のもとで推進していただきたいと思っております。その関係で2点申し上げたいと思います。

まず1点目は、地方部における高校教育を考える市町の会、これは24の市町長で構成しておりますけれども、その会でアンケートをさせていただきました。

詳細は省きますけれども、ほぼ全市町に共通した回答というのが2点ございました。

1つは、地方部において高校を存続させることは、町の発展にとって不可欠であるということ。これについては皆様方が一致した意見でした。

2つには、地方部の高校の存続にあたり重要なこと、これは高校の独自性を明確化していくことであるということでした。独自性の内容は、学科コース、或いは校風、部活動、行事など多岐にわたっております。

知事におかれてはすでに県立高校の部活動の環境整備の支援等、高校にとって非常に有意義な政策を打ち出していただいておりますけれども、さらに各高校が市町と連携しながら独自性を強化できるような政策を打ち出していただきたいということが1点目です。

それから2点目。少子化が進む中で、特に地方部においては、まず小学校のあり方が課題となります。コロナ禍のときに出生数が激減しており、その子たちが小学校に上がると

きに、小学校のあり方が非常に大きな課題になっております。これに関して、例えば次のような点を含む包括的な方針を打ち出していただけないかと思っております。

1つ目は、25人程度の少人数学級を標準とするということを選択肢として認めていただけないか、そうすることで授業改革が進めることができないかということです。

2つ目は、特別な支援が必要な子どもたちが、同じクラスで学ぶいわゆる包摂教育というものをスタンダードにできないかということでございます。

知事には不登校児童生徒支援員の配置支援をしていただいておりますが、こういう形で少人数包摂教育の中で、そもそもクラスの中で不登校をなくしていくことについて、南あわじ市の中でチャレンジしている学校があり、現在不登校ゼロとなっておりますので、不可能ではないのだろうと思っております。

それから3点目はアフタースクール等によって、放課後の子どもたちの居場所を確保するといった点でございます。こういった点も含めて、今後の初等中等教育のあり方についても、知事の政策として打ち出していただけると大変ありがたいと思っております。

以上、要望させていただきます。よろしくお願いいたします。

#### (齋藤 兵庫県知事)

ご指摘いただきましてありがとうございます。

#7119については、後程また担当の方から説明させていただきますけども、救急対応が逼迫する中で、軽傷者への対応として非常に大事な仕組だと思っておりますので、すでに実施されている神戸市などの状況も伺いながら、全県展開をどのようにしていくかということとはしっかり協議しながら考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ケアマネについて、介護人材の確保というものは、本当に今回もいろんな地域に行かせていただいて、やはりすごく大事なことだと改めて思いましたので、法定研修の費用とかいろんな課題については、また詳細を教えていただきながら、どういった対応ができるかということ、今後考えていきたいと思っております。

それから福元市長からいただきました、中山間地の林業振興、そして医療の問題です。市立病院の建て替えも大変厳しい状況になっていると思っておりますけれども、周産期医療を何とか確保したいという思いもしっかりと承りましたので、今後また、しっかりと連携しながら、何ができるかということをお考えさせていただきたいと思っております。

それから守本市長からお話のありました教育県兵庫については、全くその通りだと思っております。

特に、いわゆる公教育、県立高校も私学もですが、小中学校、そこで子どもたちが安心して学び、そしてスポーツとかいろんなことができるような環境を作っていくということが、やはり若者への支援の1つの大きな柱であるということが、今回の選挙において、若い世代が県政に対する関心を強く持っていただいたということも通じて、本当によくわかりました。

不登校の問題については、川西市・伊丹市の先進的な取組を参考にさせていただきながら、県としても取組を進めていきたいと思っております。不登校児童生徒支援員配置の支援の拡

充というのが、これからすごく大事だと思います。ある地域で、この校内サポートルームがあったおかげで、お子さんが不登校から脱することができたということを涙ながらに語っておられる県民の方とも出会いました。こういった不登校児童生徒への支援とか、少子化の中でもどういったことができるかというのはそれぞれの市や町と、これからはしっかり話し合いながら、進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

**(唐津 危機管理部長)**

救急安心センター #7119 についてご説明させていただきます。

県では、危機管理部、或いは保健医療部、それと県下の消防長会等の職員で構成された研究会を設置しております。この中で、#7119 事業の全県展開について、他府県の実施状況等を参考に研究調査をしているところです。

夏には、実際に実施されております神戸市の現場に、実際に全市町の方に来ていただき、神戸市の具体の手法とか成果について説明していただいたところです。

現時点では、全市町と県が連携して実施主体となり、神戸市、芦屋市、姫路市の3市で実施しているところですが、その事業を拡大する方向で議論を進めております。早期の事業展開を念頭に置き、実施体制とか費用負担等について、検討を行っているところです。

各市町の皆さんにおかれましても、同事業の全県展開に関して、ご理解とご協力についてよろしくお願いしたいと思います。

**(藤原 教育長)**

南あわじ市さまからいくつかご指摘をいただいております。

地方部における高校教育を考える市町の会とは、私が教育長になってからも意見交換をさせていただきましたが、基本的には「県立高等学校教育改革第三次実施計画」の中で、地方部にある、1市1町に1つしかないような学校をしっかりと守っていくという方針のもとで、どう活性化していくかということを議論していく必要があると思います。

特に郡部の学校というのは、地域と連携した活動を非常に活発に行っております。これをもう少し来年度から広げていけないか、検討しておりますのと、教育DXについて、国がかなり予算を増やそうとしていますので、教育DXの国事業を活用して地方部の高校を活性化できないかということも考えております。

それから小学校のあり方で、25人学級についてですが、少なくとも現時点では、小学校5年生まで35人学級で、来年には6年生まで35人学級となりますので、それを今後中学校まで拡充していくかどうか。すでに小学校の中には教科担任制クラスや少人数学習指導を実施しているところもあり、どちらかというとしりや町からは、1つのクラスを分けて少人数授業を実施するというところへの要望が多いですから、そのあたりは国の状況を見ながら検討していきたいと思ひます。

特別支援学級につきましては、基本的に保護者の皆さまの判断でどうされるかということですので、特別支援学級がいいのか、通常学級で学ぶのがいいのか、一人一人の子ども

たちの成長のニーズを踏まえて決定していくということが必要であり、1つのやり方ありきではないと考えておりますので、子どもたちのニーズを踏まえた、学校での生活の仕方を、一緒に考えていきたいと思っております。

それからクラスの中で不登校をなくすということについてですが、昨年から市町のご協力をいただいて、校内サポートルーム支援員配置を支援しており、中学校については、令和6年度の1学期の不登校の子どもたちの数が、令和5年度の1学期とほぼ同水準となり、増加傾向に歯止めがかかっているような状況が見られます。小学校については全校配置できておりませんが、増加傾向は若干収まっておりますので、小学校については、来年度もう少し拡充できるように現在予算要求を行っておりますので、その辺りは知事ともよく相談しながら、拡充に向けて努力していきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

#### (守本 農林水産部長)

冒頭、酒井市長から、多様な担い手のもとでの持続可能な農村づくり、それから、福元市長からは、農林業の振興についてご提案をいただきました。

本県の特産品である、丹波の黒大豆、北播磨を中心とした酒米の山田錦、また淡路島の玉ねぎなど、こういった特産品は、家族経営といいますか兼業農家の方或いは副業的な、生産者の方が、プライドを持って生産され、産地を支えていただいていると言っても過言ではないと認識しております。またこういった農業者の方々が、田んぼや畑のみならず、農道や水路やため池、こういった農村環境の維持にも、大きく寄与していただいていると認識しております。そのため、これから持続可能な地域を作っていくには、こうした持続可能な地域農業の仕組みづくりを進めていかなければならないと考えております。

今、各市町で地域計画の策定を進めていただいておりますが、この地域計画の中で、例えば機械の共同利用や集落営農組織化、あるいは農業法人の育成、また、こうした経営体への農作業受託の仕組み、地域外からの就農希望者への受け入れ、こういった各市町の取組を県としてもしっかりと支援していきたいと考えております。

それから林業振興については、兵庫県の人工林は22万haございますが、その約8割が46年生を超え伐期を迎えているという状況です。ご心配をおかけしております分収造林事業の問題につきましても、これは分収林地だけの問題ではなく、人工林全体の森林整備、森林管理の問題だと認識しております。森林環境譲与税などを活用いただきつつ、それぞれの市町でしっかりと森林管理していただいておりますが、今後、伐採収益が見込める森林につきましては、切って木材として使って、また植えて育ててという資源循環型林業へ誘導してくとともに、また奥地奥山といったような、なかなか収益が見込めない森林については、今後、防災面や環境面で、こういった森林整備が必要なのかということの検討が必要となりますので、こういった森林整備に必要な技術やノウハウ、財源なども含め、今後、県議会とも議論しながら、県としてもしっかりと森林整備や林業振興に取り組んでまいりたいと考えております。

**(仲田 三木市長)**

改めてご当選おめでとうございます。先般は兵庫県連合自治会大会ということで、三木市にお越しいただきましてありがとうございます。

冒頭知事のお話を聞いておまして、縣市連携して一緒にやっていきたいという話をお伺いいたしました。こちらこそどうぞよろしくお願ひいたします。

おそらく今日お越しの市町長の皆さま、また多くの県民が望まれておられますのが、やはり新知事のもとに、県政の安定ということだと思いますので、引き続きよろしくお願ひをいたします。その上で2点、要望させていただきたいと思います。

1点目が防災庁の神戸周辺設置、また防災関係機関の本県誘致ということで、昨日知事も全国知事会で発言されたということはお聞きしております。私も先週、赤沢防災庁設置準備担当大臣にもご要望させていただきました。

来年1月は阪神淡路30年ということで、やはり阪神・淡路大震災を経験した本県としても、この防災というのは非常に重要なキーワードだと思っております。関西広域連合でも、三日月知事におかれましても非常に積極的なご発言もいただいておりますので、引き続きよろしくお願ひをいたします。

あと1点が、働く場の確保ということで、ひょうご情報公園都市について、これまで縣市共同事業として進めてきていただいたところであります。先般県の方でサウンディング調査をされたということでございますので、その結果も踏まえ、今後も縣市共同で、また働く場の確保に向けて一緒に取り組ませていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

**(津田 市川町長)**

市川町は兵庫県の中でも本当に小さな町なのですが、愛アン8-10号（アイアンハート号）による情報発信を起点に、いろんな事業展開をして、とにかく市川町を知ってもらうための事業をしております。今後においても、ぜひこの事業のための予算をつけていただきたい。

それと、少子化が深刻で、昨年度は27名しか町内で生まれておりません。このため、将来、だんだんと人口が減っていくことが予想され、町の活気にも関わります。そうした状況下ですので、小・中学生の給食費の無償化を、県・国を合わせてご支援願ひたい。財政豊かな市町では、すでに給食費の無償化されております。特に近隣市町でされますと、どうしても若い保護者の方々は、より生活しやすい市町へ移られる、そういう事例も出てきておりますので、この件についてもお願ひしたい。

それと、インフラ整備関係です。下水道とか、県の西脇八千代市川線の道路拡幅が、約20年前から言われているのですが、今、たくさん予算をつけていただひ進めていただひしております。この件は本当にありがたいと思っております。それでも、まだまだ未改良部分が多いので、今後も早い段階で、何とか完成をお願ひしていただひしたいと思ひます。

最後に、市川町は耕作放棄田がたくさんあり、この対策として今、有機農業について、担い手になっていただひしている家庭が増えてきております。こういった方に対する支援と

ともに、耕作放棄田の農地転用を進めて企業誘致を今考えておりますので、これについて、バックアップしていただきたいと思っております。

### (高島 芦屋市長)

今回2つありまして、なかなか財政も厳しいということで、予算がかからない話をまた中心にしたいと思えます。やるやらないというよりも根幹となる考え方の方、ぜひお話いただきたいと思えますのでよろしくお願い致します。

まず1点目、前回に引き続きですが高校入試の話をしてください。実は前回の懇話会の発信後、複数の中学校の現場の先生からご連絡をいただきました。いただいたのは、高校入試が変わらなければ、なかなか現場の学校の授業変わらないという声です。

現在学校の教育内容は、「主体的・対話的で深い学び」を目指して大きく変わろうとしています。現場の先生が日々努力をしてくださっているのですが、やはり入試がボトルネックになっているという声がたくさんあります。前回も指摘したように、試験問題を見ても、残念ながら知識偏重で探究的でないというのが現状になっています。ここは教育長と認識は少し違いましたが、現場からはそのような声が届いています。芦屋の公立中学校の生徒はほぼ全員が高校受験をしますので、高校受験の内容によって、中学校の授業スタイルが制限されるということです。中学校の学びの変革の大きな流れと現実としての高校入試の間で板挟みになっているという状況になっています。

今回特に取り上げたいのが内申点についてです。兵庫県では、すべての高校入試で内申点の比率が50%、一対一で、特に実技教科の割合が高いというのが特徴です。このような状態では、増え続ける不登校の生徒は、公立の高校進学を諦めざるを得ないというのが現状です。それ以外の生徒でも、内申点が半分を占める状況だと、どうしても日々の学校生活の中で、先生の顔をうかがってしまうというような声も聞いています。主体的な学びを進めていくという上で、この状況では難しいのが現状ではないでしょうか。

さらに実技教科の割合が高いということで、先生に、ともすれば受けそうな作品づくりをするというような状況になっているという声も現場から上がってきています。もちろん、本番の点数だけで判断されるのは辛いという声はよくわかります。ただせめて、今後の目指す学びの方向性に沿った形での高校入試改革を始めるべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

我々芦屋市でも今年度から独自にワンステッパーズという取組で、短期の授業に取り組む先生を応援しています。他の県立高校入試で行われている自己表現等も含めて、中学校の入試の探究型への授業改善を促すような改革に期待したいと思えます。私は私の立場で精一杯やりたいと思えますのでぜひ、教育長として高校入試どのようにあるべきと考えているのか。改めてうかがわせてください。

もうひとつが、これも前回取り上げました、臨床研修医の初期研修の制度についてです。これ前回も川西市の越田市長とともに取り上げました。

令和7年度定員より、芦屋病院の募集定員がゼロになるという連絡がありまして、主な理由は病院規模すなわち募集定員が少ないところからさらに削減するという形になってい

ます。

研修医定員は研修病院に研修医を育成指導することができるスタッフがそろっていることや、指導を研究する環境が整っているということを示すものであり、医療関係機関や大学医局からの公立病院としての信頼、ひいては大学医局の各病院に対する医師人事にも影響することが考えられる非常に重要な指標になっています。

私がここで述べたいのは、単に芦屋病院の定員を増やして欲しいという話ではありません。今後日本全体を見たときに、医師の偏在というのはますます進むと思います。そうすると、兵庫県はどちらかというと、全国で見ると医師が多いので、定員の割り振りというのはさらに減ることが想定されるのではないかと思います。そうなったときに県はこの後どのように対応していくのでしょうか。相対的に小さい病院の定員をゼロにするということを県内で続けていくのでしょうか。

我々が独自で募集定員の状況を調査したところ、病院が小規模であることだけを理由に、定員をゼロとしているのは兵庫県のみでした。4月にもこのテーマで要望しましたが、7月時点でも、国に特別加算復活の要望を上げるという回答しか、県から返ってきていない状況になっています。国を増やして欲しいと要望しても、全国的な医師偏在の解消を考えると、簡単に増えることはないと思います。そう考えると、県内の配分を見直す他ないと考えます。どのような理念に基づき、研修医定員の配分を行っているのか、そしてこの配分方法が持続可能なものなのか、ぜひお考えをお聞かせいただければと思います。よろしく申し上げます。

#### (齋藤 兵庫県知事)

仲田市長からいただきました防災庁の件は昨日の知事会でも、話をさせていただきました。そしてそれに先立って、防災担当防災庁設置準備担当大臣に、ご要望いただいたということで本当にありがとうございます。関西広域連合でも議論が深まってきていまして、関西に防災庁をどう移行していくのかということはこれからまた議論しながら、一緒にやっていきたいと思っていますのでよろしく申し上げます。

情報公園都市についてはサウンディングの結果を踏まえながら、また密に連携しながらどう進めていくかということをもたご相談させていただきたいと思っていますので、お願いします。

それからオンラインで津田町長からお話いただきました、地域の特産品のPRであったり、少子化対策とか、学校給食費の無償化、そして、地域にとって声強いインフラの整備など、そういったところはこれからまた、地元の状況を伺いながら、一緒にやっていきたいと思ひますし、有機農業については、農業政策の中でこれから大きな柱だと思ひますので、市川町は先進的な取組もされていますから、ぜひまた意欲ある農家さんを応援する取組をこれからはもしっかりやっていきたいと思ひています。

それから高島市長からお話いただきました高校の入試についてですが、内申点の問題については私も躍動カフェなどで、保護者の方からいろんなご指摘、課題というものは伺っておりまして、これもやはり結構腰を据えて、どうしていくべきかということも10

年スパンぐらいでやらなくてはいけない話だと思っております。これは高校入試だけではなくて、大学入試、中学入試など、今の日本の入試というものが、そもそもどうなのかというところの大きな議論もあるような気がしますので、入試全体がどうあるべきかという中で、高校入試はどうかと考えていく観点と、実際の兵庫県の県立高校の入試のあり方が、実際としてどうあるべきかという議論の両方について、またご意見など伺いながら、議論していきたいと思っております。私も強く問題意識を抱いておりますので、よろしくお願いいたします。

それから臨床研修医の話は、また後程担当から説明させていただきますが、県内の医局とかいろんな話の中で、いろんな事情もあるとは思いますが、やはり、小規模な病院であっても、臨床の研修医さんがしっかりと提供されると、確保されるということは大事な観点だと思いますので、実際今後どのようなことができるのかというところは、またしっかりと現場の実情を伺いながら考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### (唐津 危機管理部長)

この度、政府の方で、防災庁の設置準備室が設置されました。

関西、兵庫県並びに関西広域連合が防災庁の設置、そして関西広域連合の方では関西へ、兵庫県では兵庫へという形で、拠点の誘致を行っております。

我々はこのタイミングを絶好のチャンスだと思っておりますので、ぜひとも、防災庁の設置、それと関西へ兵庫への誘致を進めていきたいと考えております。

今回の能登半島地震を踏まえましても、一体となって対応していく必要性を非常に感じておりまして、課題という形で表れてきております。今後、首都直下型の地震ですとか、南海トラフ地震という、国内レベルの地震というのも想定されております。そういったものに対応していくためには、やっぱり専門の機関が必要であると考えておりますので、我々といたしましても、国に対して要望・提言していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### (藤原 教育長)

高校入試につきましては、春にご意見をいただいて、我々も担当者と話をしましたけれども、私もその試験問題検討委員会に入っていますが、まさに国の学習指導要領、ご指摘のような「主体的・対話的で深い学び」のそのような変化にも対応しながら、試験問題をそれぞれ、毎年考えていますので、それが中学校の「主体的・対話的で深い学び」の学習と合っていないということはないと思っております。

ですので、単に機械的に設問を作っているわけでもありませんので、それはご意見としては賜りますけれども、引き続き毎年の試験については、そのような中学校の学び、そして高校の学びの両方を反映するような試験問題として考えていきたいと思っております。

それから内申点につきましては、やはり一発勝負で決まるのではなくて、当日の試験と内申点で総合的に判断するというのが平等的な判断だということで、これまでから一対一で指定をしております。また技術家庭につきましては、これは当日の試験にはありません

ので、そういう意味では、内申点の方でその分の比重は高くして、トータルの子どものうちの中学校の学校生活の反映が内申点に表れるようにしておりますので、総合的に内申点の評定の仕方、入試の一对一の設定の仕方というのは、私は今のやり方が適切ではないかと思っております。

#### (波多野 保険医療部次長)

臨床研修医の定員につきまして、今年度臨床研修医の特例配置が廃止されたことにより、一部の病院において臨床研修医が0名になったことで、該当の市長さまからお叱りを受けたところです。配置決定にあたり、各医療機関との意思疎通が十分できてなかったことが発生しております。大変申し訳ありませんでした。

医師の臨床研修ですが、優秀な医師を育成するために、研鑽が十分に積める医療機関で実施するということが望ましいのですが、それだけでは、大きな医療機関に研修医が集中し、小さな病院や郡部の医療機関の医療提供体制に支障が生じる恐れがあります。

臨床研修医は、1人で医療行為が単独でできないですが、例えば救急の夜間当直において、患者のトリアージであったり、救急隊からの電話対応や、カルテの入力補助、正規のドクターの補助をすることで、正規の医師の負担軽減に繋がると認識しております。

地域において休日夜間の救急体制の基幹的な機能を担うような病院など、地域医療の中核的な医療機関の医療提供体制を確保するなど、病院単体ではなくて、医療圏域全体の状況を踏まえながら、配置というのは判断させていただいております。

昨今、国から兵庫県に配分される臨床研修医の定員が年々減少しており厳しい状況ではありますが、ご指摘いただきましたように、今後2040年とか2060年とか、こういった将来を見据えて持続可能な医療提供体制をどうやって作っていくかというところは、引き続き検討して参りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### (丸谷 明石市長)

齋藤知事再選おめでとうございます。

まず大きなところで、明石市におきましても、県立明石公園内の旧図書館の再整備ですとか、明石港東外港地区の計画整備など、これから県と連携していかなければならない大きな事業が控えておりますので、ぜひ、トップ同士による協議、意見交換の場を早急に設置していただきたいということをまずお願いしたいと思います。

その上で、私からは子どもたちの教育環境について2点お願いしたいと思います。

先ほど市川町の方では、有機農業を始められているというのをお聞きしましたけれども、明石市におきましては、学校給食における有機食材の活用を始めております。

今年度新たに予算確保しまして、学校給食において、有機給食の日及び地産地消の日を設定しまして、11月から1月にかけて、計3回にわたって有機食材を使用した給食を今まさに提供しているところです。その中で、有機食材といった、環境負荷の低減がなされた栽培方法で作られた食材を学校給食で使用する、食育やSDGsへの貢献とか、子どもたちの地域愛を育むとかそういう観点からも大変意義があるものと認識しておりますが、一

方で、明石市においては、有機食材の栽培に取り組む農家が少なく、また取扱業者も少ないことから、食材の安定確保が大きな課題となっています。

ですが、先ほどおっしゃったように兵庫県においては、有機農業を含む環境創造型農業の推進に力を入れられておりますし、担い手の育成や有機農産物の流通販売対策、また県民の理解醸成など、生産対策と出口対策の両輪で取り組まれています。こうした有機農業の拡大に向けた取組を、引き続き県と市町が一体となって推進していただきたいということと、出口対策の取組の1つとして、ぜひ、学校給食において、私どものような市域が小さくて、有機栽培をしている農家が少ないような地域にしっかりと有機食材の活用を希望する市町と、食材の確保とその安定供給とのマッチングのような支援をぜひ県の方でしていただきたいというのが1つです。

もうひとつは、校内サポートルームの支援員の配置について、現在県から、小学校においては4校に1人、配置時間は1日4時間とし、配置補助をいただいているところですが、1日4時間だけでは、児童生徒に対する個々の状況に応じたきめ細やかな支援を行っていくには時間が不足しているということで、明石市の場合は、市で財政負担をして配置時間数を増やし、指導員・支援員を配置しているところです。ぜひとも今後は、この県の補助対象を、小中学校へと拡大していただきたいということと、配置時間数の増加もお願いしたいということをお願いしたいと思います。

#### (松本 尼崎市長)

知事再選おめでとうございます。選挙については世論を非常に二分する選挙であったのかなと思っておりますが、首長である以上、この選挙結果が出ましたので、私も首長の責務として、市政を中心に考えて、また県政としっかりと連携をしていかないと、地域の住民の方々の生活の発展もありませんので、ここについてしっかりと向き合って、仕事をしていきたいと思っております。そういう意味で引き続きよろしく願いいたします。

その上で、この県市町のこれからの連携の中でこの2年間、私も感じていたある種の課題というのは、国の政策は意外と概算要求の前あたりから、かなり情報が透明化されていて、例えば経済財政諮問会議でどんな議題が上がっているかとか、そういうことが全部オープンになっていて、それがマスコミも含めて様々な議論があり、概算要求や制度改革に繋がって、大体12月末の様々な制度としてアウトプットとして出てくるので、受ける基礎自治体側としては、大体こういう動きがあるなということを予想しながら対応できるのですが、なかなか自治体の様々な政策というのは、頑張って情報公開しているものの、世論を巻き起こすほどの情報量がないこともあって、例えば随伴事業とかで、非常に突如連絡が来て戸惑うということが何度かありまして、こういうことをできるだけ解消していくことが大事かなと思っております。

特に尼崎のような中核市の場合は、ある程度独立してできているところもあるので、県に対する反発心というか独立心も非常に強いところがありまして、そういう中で職員の思いというものもありますので、私自身はそういうところを、これから解消していかないといけないなと思っております。

1つ、この取組としてやっているものとして、県民センターとしっかりとコミュニケーションをとるということを、実は意識してやっております、これについては各市町いろいろだと思えますけども、私の場合は県民センター長と、大体予算編成方針の前あたりに1回対面で、いろんな意見を考えて「今市政にはこういう課題があって、市としてはこうやりたいし、県としてもこういうところを応援してもらえるとありがたい」というような、やわらかな議論をじっくりとさせていただいて、その上で予算編成を迎えて、また予算編成がまとまる段階で、県民センターの皆さんと意見交換をする。そうすることで、県の情報も少しいただけるし、我々も地域の情報を届けられるというようなことをやることで、基礎自治体とのコミュニケーションをできるだけ円滑にできないかなということ工夫しております。

そういう意味で、私がおつき合っている県民センターは非常に地域のことを考えてやっていたので、知事もいろいろすごくバランスを持って政策をやっていたというのにはよくわかっていましたので、またこの県民センターとも、各部局も情報共有をしていただいて、円滑に政策ができるような環境になっていったらいいかなと思っておりますので、そこは基礎自治体としても努力しますので、引き続きよろしく願いいたします。

#### (岡本 猪名川町長)

齋藤知事、再選おめでとうございます。

私の方から、さきほど随伴事業の話が出ましたが、空き家への対応等のことで、上半期にその随伴事業が予算オーバーということで、途切れてしまうといったことがありましたので、決算見積もりなどよく見ていただきながら、途中で切れないような形をお願いしたいというのが1点。

もう1つは、带状疱疹のワクチンについては、来年度も引き続きというような認識をしておりますけれども、どうなるのかということをお伺いしたいと思います。

#### (齋藤 兵庫県知事)

まず、丸谷市長からのお話で、旧図書館、東外港とも非常に大事な明石市と兵庫県の課題ですので、ぜひトップ同士の会談を含めて、これからしっかりやっていきたいと思えますよろしく申し上げます。

有機農業については、ご指摘の通り、学校給食への導入というものは非常に、保護者の皆さんからの期待も大きいと思っています。一方で供給が1つの市や町の中では足りないという問題もありますので、どうやってマッチングできるかというところ、今、検討会も作っておりますので、そこでしっかり議論していきたいと思っております。

校内サポートルームの充実については、教育委員会と連携しながら、できるだけ充実していくようにやっていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

松本市長からお話ありました予算のアウトプットの早期の見える化については、前から県に対してご指摘がありましたので、できるだけ頑張って、特に随伴事業について、早期

の情報提供に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

県民センターとのコミュニケーションについても非常に大事なことだと思いますので、これからもやっていきたいと思います。

それから岡本町長からお話ありました空き家事業の上半期で予算が切れたというのは私も存じ上げておりませんでしたので、また状況を聞きながら来年度に向けて、改善できることはしていきたいと思っています。

带状疱疹については、それぞれの市や町の執行状況とかを見させていただきつつ、できるだけ早く方針を示せるようにしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

#### (越田 川西市長)

再度改めてご当選おめでとうございませう。私たちそれぞれ市長、町長それぞれ様々な立場がありますけれども、私たちが共通しているのはそれぞれ県民、市民町民のために仕事をしていきたい、県民市民町民のためであれば、必要な連携もするし、場合によっては議論もしていく、こういった姿勢でこれからも臨んでいきたいと思ひますのでどうかよろしくお願いをいたします。

その上で私、この場所に立って3年前のことを少し思い出しておりました。3年前、知事が初当選され、様々な行政改革の取組をしようとしたときに、我々が聞いていないというようなこともありましたので、そういった議論の中から、県・市長会・町村会との政策懇話会ができたという経緯がございませう。その時に私が印象的に思っているのが、知事から、「財政状況に対してご理解をいただきたいんだ」というご発言をいただいたときに思ったことは、「私はそれはもう十分に理解をしている、市長も町長も全員理解している。ただ、卵焼きは一緒に作って欲しいんだ」ということだ。

知事が思ふ卵焼きの形、正しいという思ふ形があると思ひます。それは私たちにあって正しいかどうかということ、それぞれ好みがあつたり見え方が違つたりします。ですのでこれからも県政が、もちろん最終的なご決断というのは知事の思ひのもとで、しっかりと進めていただくというのが重要だと思ひますけれども、その作る過程において、甘い卵焼きがいいのか、しょっぱい卵焼きがいいのかと、いやもしかしたら実は目玉焼きがいいかもしれない。こういったところで、県民市民町民のために、様々な議論をしっかりとこれからもしていきたいと思ひますので、知事におかれましては、改めて、県と市町との関係についてこうしていきたいんだと、そういったことをぜひお聞かせいただきたいと思ひるのが1点です。

2点目ですが、今回の選挙については、知事の政策というものは、もともと大きく県議会の中では議論があつたと思ひますけれども、それぞれ一つ一つの政策についての是非ということよりは、大きな政策は、そもそも大きく評価をされている部分があつたと思ひます。一方で、やはりマネジメントの部分というものが、我々市町からしても、この対応がどうだったのかということが1つ大きな議論だつたと思ひます。

このことについては、民意が1つ示されたので、この件について私がどうこう言うということではありませうが、やはりこの点についても、県の職員もそうですし、私たち市

長・町長もそうですし、県民の皆さんも、知事が新たにどういうマネジメントをされていくのかということは、改めて知事の言葉をしっかりと発信をしていただきたいと思いますので、ここで改めて、こういうような県庁のマネジメントをしていくんだと、こういったことをぜひ教えていただきたいと思います。

やはり、県庁の職員、甘やかすとか甘やかさないか、厳しいか厳しくないかということと、大切に思うか、大切に思わないかというところで、やはりしっかりと職員が大切なんだと、それがゆえに、県民の方を向いて、しっかりと仕事を一緒にしていこうというメッセージを、知事が今、出されるということが最も求められていることだと思っておりますのでその点についてお聞かせいただきたいと思います。

#### (都倉 高砂市長)

齋藤知事におかれましては再選、誠におめでとうございます。

各市町にとりましてやはり県との連携なくしては、市町の発展はございませんので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは1点、播磨臨海工業地帯のことで高砂市としてお願いしたい点がございまして、カーボンニュートラルポートを、現在播磨臨海工業地帯全体で進めているところです。各企業においても、最近特に、海外との受注が盛んになってきているところもございまして、2050年のゼロカーボンに向けて、各企業はどんどん取組を進めていっております。

そういった中で、私ども東播磨港の将来に向けて、県にお願いしたいのは、この播磨灘は、水深が浅いという状況がございまして、やはり水深の確保、喫水が十分にあれば、大きな船が入ってこられる状況になります。ぜひとも東播磨港の港湾計画を将来に向けて進めていく中で、播磨臨海工業地帯の発展とあわせて、どうかよろしくお願い申し上げたいと思います。以上でございます。

#### (関貫 豊岡市長)

県政を3年少しやられたという前提で今回からはリスタートだということで思っております。そういった意味では過去3年間で感じたことを申し上げて、新たに構造的にもこのようなパターンをお願いしたいということで申し上げたいと思います。

ひょうご五国、知事はいろんなところに来ていただける、来ていただいたところは大変うれしく思っておりますが、但馬3市2町の中に来ていただける際に、例えば養父市に行かれたとき、そして豊岡市に来ていただけるときに、お越しいただいて行事に参加されているということが、私に漏れ聞こえて伝わってくるという状況がありました。

もし市町にお越しになるのであれば、やはりその市町それぞれに担当部署でもよいので、知事が行くということをぜひご連絡しておいていただきたいと思います。これはもちろん、県民局の仕事であるかもしれませんが、県民局も知らないという場面が多々ありましたので、そうなりますと我々も戸惑ってしまうということがありますから、職員の方々に、その点をお願いしておきたいと思っております。

それともう1点は、知事の県政の考え方についてはいろいろお聞かせいただいております。

ますので、よく理解をしているつもりであります。「若者向け」と言ったら大変よい、そして今後我々も考えなければならないということであるとは思いますが、人口の構成の絶対数はやはり今は高齢者であります。高齢者の方も、今人生 100 年時代という言葉があるように、やはり健康寿命を気にされる方も多くなってきました。そうした中で、フレイル対策等々これまでもやってきておりましたが、それでは間に合わない部分もあり、そしてまた、コロナ以降、高齢者の方々の行動パターンが変わったということがあります。

豊岡市では、個別の訪問を理学療法士等に行かせていただいて、個別対策をするという取組を行っておりますけれども、若者対策、非常に重要なことではあります、現絶対数の多い高齢者対策に対してどのようにお考えかをお聞かせ願えればと思います。

#### (西村 新温泉町長)

まず、齋藤知事、再選誠におめでとうございます。

2 点、検討をお願いしたいと思います。

新温泉町は美方郡にあり、香美町と並んで、2050 年、人口が 5 割以上減少する県下で最も人口減少が厳しい地域であります。そういった中で香美町、新温泉町は観光に大変力を入れております。一方で J R 西日本からは、香美町の香住駅、新温泉町の浜坂駅、それから、鳥取県の岩美駅もありますが、この 3 つの駅については、自動改札の設置は難しいという返答をいただいております。ぜひ観光の町としても、自動改札の設置を考えて欲しいので、ぜひ県の力もしくは国のバックアップが欲しいと思っております。

それからもう 1 点、鳥取県との県境の町としてのメリットとデメリットがあります。

兵庫県は、この 10 月から、最低賃金が 1,052 円になりましたが、鳥取県は 950 円で、100 円、1 割の差があります。そういうことで新温泉町の事業所に鳥取県側から、最近、道路環境も良くなって、勤務する方が増えました。そういう意味では、労働環境の改善に繋がったのですが、一方で、新温泉町の住民が家を建てても安い、土地も安い、いろんな面で生活環境がいいということで、鳥取県に家を建てての方が増えました。兵庫県で勤務し鳥取で生活する、こういうことで、町税が本町には入らないという流れがあります。この最低賃金のあり方、メリットとデメリットがありますが、余りにも 1 割の差というのは厳しいなという具合に思っておりますので、改善策を検討いただきたいということです。

#### (中山 稲美町長)

私の方からは、小中学校の体育館のエアコンについてです。保護者の皆様からまた子どもたち本人からも聞いておりますが、本当に暑くなって大変だということで、どの自治体も喫緊の課題であると認識されていらっしゃると思います。また国の方でも、小中学校の体育館に、加速化して設置していきたいというような新聞報道もありました。

こういった意味でも、兵庫県は来年、震災 30 周年を迎え、また防災に関しても、トップランナーの県でございますので、国と併せて、県の方もぜひ後押しをしていただければ、我々の方も、小中学校の体育館に設置をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(齋藤 兵庫県知事)

ありがとうございます。越田市長からお話いただきました。卵焼きがいいのか目玉焼きがいいのかについてですが、一緒になって作っていくということ、県市町が連携してしっかりやっていくことが大事だと思いますので、どういった形がいいのか、そもそもどういったメニューがいいのかということも含めて、これからまさにそれが大事なことだと思いますので、しっかり連携しながらやってきたいと思います。よろしくお願いします。

マネジメントのお話もいただきました。今回、私も50日ほど不在になりましたが、その間、県職員の皆さんがしっかり県政を支えていただいたというところについて、改めて感謝申し上げたいと思います。やはり仕事をしていく上では1人ではできませんので、県職員の皆さんと一緒に、仕事をしていくということが大事だということ、私も本当に今回強く感じましたので、そういった職員の皆さんへの感謝と、ときには業務の方向性を話し合いながら仕事をしていくということを、これからマネジメントとしてしっかりやっていきたいと思います。

それから都倉市長からいただきました播磨臨海地域のカーボンニュートラル、これからインフラ整備も大事な局面になってきますし、山電の高架化というものも大事なところになります。ぜひ、企業の活性化のためにこれからもやっていきたいと思いますし、東播磨港の治水の問題については、また港湾計画のあり方を含めて、実情を伺いながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

関賞市長からお話いただきましたが、リスタートということになりますので、但馬地域と県の連携は大事なことでありますから、引き続きよろしくお願いします。

行事参加についての事前のご連絡については、行き届いてなかったところがあれば大変申し訳ないと思います。これからどういった形でできるのかというのをまた、検討していきたいと思います。

高齢者が安心して医療福祉介護を受けられるような環境整備というのは、若い世代の向けの支援とともに、大事なことだと思っておりますので、特殊詐欺の被害対策を含めた、高齢者の方が安心して兵庫県で暮らせるような施策を、これからはしっかりと市や町の皆さんと連携しながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから西村町長からお話いただきましたJRの自動改札の問題については、私もまた実情を伺いながら、どういったことがJR西日本の方に要望ができるのかということ、スマート改札のあり方も含めて、また議論していきたいと思いますので、また実情教えていただきたいと思います。

鳥取県との県境ということで、これが先ほどおっしゃっていただいた最低賃金の問題のメリットデメリットもあるということで、そこは本当に県境だからこそ、抱えておられる問題だと思います。これ高校生の問題も同じで、浜坂高校と隣の県の私立の問題も、やはり県境だからこそいろんな問題があるということですので、そのあたりどういったことができるか、鳥取県との連携もこれから密にしながらかけていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

中山町長からいただきました小中学校へのエアコンの問題についてですが、避難所指定されているところについては、緊急防災減災事業債といった有利な起債も使えるということありますので、その辺りまた情報共有しながら、しっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 【資料 1：令和 7 年度当初予算編成に係る市町関連事業のスケジュール（案）について】

（有田 総務部長）

当初予算のスケジュールということで資料 1 に整理させていただいております。

簡単に図示させていただいておりますが、上段が令和 5 年度ということで整理しているものです。先ほど越田市長の方からもご指摘のありました政策懇話会について、昨年度は 11 月 21 日に開催をさせていただき、市町の皆さま方に負担が生じるような事業、県で今考えている事業について素案を示させていただき、これを踏まえて、12 月に市町関連予算説明ということで財政担当部長の方を対象にご説明をさせていただき、そういった機会を設けさせていただいております。その後 1 月 26 日に県・市町懇話会にて、ある程度固まった形でお示しさせていただくという流れで進めさせていただいております。しかしながら、令和 6 年度につきましては、ご承知のとおり私ども県の予算編成につきましては、かなり昨年に比べて遅れが出てきているという状況です。

今考えておりますスケジュールとしましては、12 月に市町関連予算説明をさせていただく予定にしております。こちらについては、財政担当部長様を対象にするのか、もしくは市町長様を対象にするのか、さきほど尼崎市長からもご意見をいただきましたが、こういった形で情報提供、共有ができるかということについても検討させていただきつつ、再来月 1 月下旬に県・市町懇話会の方で、市町関連予算の成案をお示しするというような形に持っていきたいと思っております。こちらにつきましては、本日いただいたご意見なども踏まえて検討させていただきながら、必要に応じて、随時、こちらからの情報提供といったこともさせていただくということになろうかと思っております。

様々なご意見をいただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 【知事閉会挨拶】

（齋藤 兵庫県知事）

改めまして、本日は大変ご多忙の中、この場、そしてオンラインでもご出席をいただきまして、また各種行事との重複についてもご調整いただき、改めて御礼申し上げたいと思っております。

限られた時間でございましたが、新たな県政のスタートにあたりまして、県政運営に対する様々なご指摘そしてご意見をいただいたということは、私にとっても大変有意義な時間、そして貴重な機会になりました。

本日いただいたご意見、そして各市や町の皆様の思いをしっかりと、私自身も胸に刻ん

で、これから県政に反映していきたいと思っております。

県と市町が互いに連携を密にしていくということは、何よりも大事なことです。これからもぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

またそれぞれの市や町に伺わせていただくということも、これからもっと増やしていきたい、そしてその際にもいろんな現場の実情や、意見交換をさせていただくということもぜひ増やしていきたいと思ひます。

これまで以上に県と市町の連携を深めて、そして強めて、よりよい兵庫県、新しい兵庫県をともにつくってきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。本日は本当にありがとうございます。